

5. アルゼンティン側の実施計画

(1) 土地、建物及び施設

プロジェクトの活動に必要な土地、建物及び施設を提供するとともに、その他以下の建物、施設をアルゼンティン側で準備することとした。

1) チームリーダー、業務調整員及び専門家の執務室

基礎科学研究棟の1階にある一般病理学の主任教授の執務室として使用している3部屋が提供されることとなっている。

2) 大型機材を設置するための建物

ウイルス学研究棟と隣り合わせに獣医学部で最も古い建物である微生物学研究棟がある。

同大学獣医学部では、この研究棟を大型機器設置のため、1988年度の予算に計上し、研究室の改修とともに、本プロジェクトにより供与される大型機材（電頭を含む）の設置場所として、1989年2月～3月に改修工事を開始する予定となっている。

3) 実験動物飼育施設

本プロジェクトの研究活動に適切な実験動物施設を考える必要がある。また、この施設の改修、建物に必要な予算はアルゼンティン側で対応するよう努力することが第一義的であるが、モデルインフラによる対応の可能性についても検討しなければならないものと考えられる。

4) テレファックスの電話回線

専門家らの執務室には、現在、電話が設置されているが、新たにテレファックスを設置するに際し必要な回線の設置をアルゼンティン側で実施するものとした。

(2) 人員配置

ア国の現行教育制度により、本獣医学部には約300名の学生が無試験入学し、そのうち約半数が5年次を卒業している。しかし、教育・実習施設は旧来の約40-60名を対象としたものが大半で、例えば1年次の実習は、同じテーマを7回繰り返すというような変則的方法がとられ、教官の教育負担がきわめて高い。研究活動の水準から見て、過大とも思われる教官数（約130名）が配置されている所以である。

ところで教官の給与の身分は、フルタイム、パートタイム、無給に分けられ、フルタイムは約40%に過ぎず、異常に少ない。給与の負担は約60%が大学で残りはCONICET（科学技術研究国家会議）が行なっている。フルタイムの中には大学、CONICET双方からパートタイム給与を受け、実質的にフルタイムと見なされる者も含まれている。

研究者は、CONICETに対して、給与に加えて研究費の交付を申請できる。しかし、本獣医学部教官にあつては、研究業績が不十分であることが最大の原因となつて、概して

言えば、パートタイムとしての人件費と僅少の研究費しか受けていない者が大半である。

本プロジェクトを“研究協力”とすることのA側の意図、本プロジェクトに対するA側の期待の最も大きな点の1つは、本プロジェクトによって研究が活性化すれば、①CONICETより人件費、研究費を受ける有資格者が増大すること、②パートタイムがフルタイム化されること、③研究費が増大すること、等が図れることにあると思われた。すなわち、これらが実現すれば、教育負担が相対的に軽減し、そのことによって研究活動がさらに活性化するという好循環の確立することが十分期待できると考えられた。

各研究テーマごとの研究スタッフ(C/P)の氏名、勤務体制及び研究状況等については先に「⑥プロジェクト活動」の中で、小テーマの代表者を挙げたが代表者の下には1～2名の助教授、数名の助手、さらに複数の有資格副手、学生副手らがあり、それらが該当者ということになる。(このような研究ユニットが獣医学部には約50存在しており、2年次以降小テーマが増加すれば、C/Pとしての数も増加することになる。最終的には、獣医学部教官の1/3～1/2(40～60名、副手を加えれば100～200名)がC/Pとして本プロジェクトに参画することが予想される)

その他、日本人専門家チームがスムーズに業務を遂行するため、日本人専門家チームの専属として、事務補佐員及び運転手をアルゼンティン側にて確保するものとした。

また、5年間で相当な機材等が日本から供与されることから、それらの機材のメンテナンス要員として機材の保守・管理者をラ・プラタ大学側にて確保するものとし、ラ・プラタ大学側では、工学部出身者をもってこれに充てたいとの意向である。

(3) 予算措置

ラ・プラタ大学獣医学部における1987年及び1988年の予算は以下のとおりである。

	1987年度	1988年度
政府援助	3,952,000	1,150,000
・人件費	3,638,000	950,000
・経費	258,000	83,000
・設備費	56,000	82,000
大学資金	315,000	58,000
・経費	132,000	38,000
・設備費	183,000	20,000
合計	4,367,000	1,730,000 (オーストラル)
	2,165,990	868,889 (ドル換算)

注) 為替レート 1987年8月10日 1 USドル = 1.97 オーストラル
 1988年8月10日 1 USドル = 1.350 オーストラル

機材の引取り経費及び据付工事費、機材の維持管理費、人件費はアルゼンティン側で負担するものとした。なお、特殊な機器に関する据付工事、又は、メンテナンスに係る技術者の派遣やスペアパーツの供与については、日本側で対応することが必要になる可能性があり、その都度、検討することとした。

6. プロジェクトの運営

(1) プロジェクトの管理

- 1) プロジェクトの最高責任者は、受入機関の長であるラ・プラタ大学の学長とした。
- 2) プロジェクトの管理者は、実施機関の長であるラ・プラタ大学獣医学部長とした。
- 3) チームリーダーのカウンターパートは、プロジェクトの管理者であるラ・プラタ大学獣医学部長とした。
- 4) 業務調整員（日本側）のカウンターパートは、日本側と同等の職務を有するアルゼンティン側の業務調整員とした。

なお、アルゼンティン側の業務調整員は、学部会議の議決が必要なため、12月のR/D署名までにラ・プラタ大学側で候補者を決めておくものとした。

- 5) 日本人専門家のカウンターパートは、研究課題の代表者及び研究従事者とし、幅広く研究者の養成を行うものとした。

(2) 合同委員会

本プロジェクトを継続的、効果的に実施するため、以下の構成、機能による合同委員会を設立することとした。

1) 構成

議長は、プロジェクトの最高責任者であるラ・プラタ大学の学長とし、アルゼンティン側及び日本側のメンバーは以下のとおりである。

（アルゼンティン側）

- ・ラ・プラタ大学獣医学部長
- ・業務調整員
- ・チャスコムス診断研究調査所長
- ・各研究課題別代表者

（日本側）

- ・チームリーダー
- ・業務調整員
- ・派遣専門家
- ・JICAアルゼンティン事務所長
- ・その他JICAが派遣した者

また、オブザーバーとして、在日日本大使館職員及び経済省農牧水産庁の代表者が参加できることとした。

なお、教育省、教育庁大学局の代表者がオブザーバーとして、参加することについて検討する必要があるかと思われる。

2) 機能

- 実施計画の進捗状況をレビューする。
- 年次別実行計画を承認する
- 研究課題の採択・変更を承認する
- 両国の取るべき措置についてレビューする

3) 開催頻度

- 少なくとも年1回開催する

(3) 国内委員会（仮称）

日本国内において、本プロジェクト発足のための準備委員会を設け、プロジェクト実施上の問題について、検討を行っているが、R/D署名後は、以下の事項について検討を行うため、国内委員会（仮称）を発足する準備がある旨、アルゼンティン側に説明した。

- ① 実行計画の策定に関する事項
- ② プロジェクトの実施に係る専門家派遣、研修員受入、機材供与に関する事項
- ③ 研究課題に関する事項
- ④ その他プロジェクト実施に必要な事項

7. プロジェクト実施上の留意点

(1) 専門家の身分、処遇

技術協力協定の内容については、アルゼンティン関係者は了知しており、また、現在行われている他のプロジェクトにおいて要請書等の手続き上の問題はなくスムーズに行われている。

なお、アルゼンティン側から、協定にはアルゼンティン側で負担できない事項（家具付住宅の提供等）があり、現実とそこを来たしているところもあるとの意見もあった。

(2) 専門家の地位

ラ・プラタ大学において、他の大学等からの研究者に対し、客員教授の称号を与える制度がある。この手続きは、各学部長からの申請に基づき、大学の最高審議会にかけ、大学学長により承認される。前例からいって本プロジェクトにより派遣される長期専門家（研究者）は、この称号が与えられるものと了解された。

また、同大学においては、上記客員教授以外（名誉教授を除く）の正式な称号を与える制度がないことから、若手研究者（日本人長期専門家）に対しては、その都度獣学部の決裁によって然るべき称号（Research Associate等）を付与するよう処置することとなった。

なお、今後は上記称号を与える基準についてラ・プラタ大学側と合意を得ていく必要がある。

(3) 研究成果の発表並びに知的所有権

本件について、ラ・プラタ大学法律関係秘書官 Dr. Teresa E. Bengardini に面会、調査した結果、以下のとおりである。

- ① 本プロジェクトの研究の論文発表の場合、研究に関与した研究者全てを著者に含める。
- ② 論文の投稿に当たっては、事前に日本側で検討の上、学部長を通じて事務局法律課に届出なければならない。但し、形式は自由である。
- ③ 学会、学術誌等に受理され公表された論文は、別刷5部を学部長に提出する。なお、受理されなかった場合は、特にその旨を届け出る必要はない。
- ④ 特許については事態が発生したとき、その都度個別に協議するものとした。

(4) 機材の引取り

日本から供与される機材の引取り手続きは、B/Lのオリジナルが到着してから開始される。無税通関手続き完了するまでに要する日数は、通常約1～2週間程度、場合により1ヶ月以上かかることもある。

1) 同時携行機材の場合

事前通関手続きのため、遅くとも到着日の1週間前までに以下の事項をJICA事務

所に連絡しておかなければならない。

(事前の連絡がなければ通関の際にトラブルを生じる。)

- ・到着日及び到着便名
- ・同時携行者氏名
- ・インボイス(機材名, 数量, 価格)及びカートン数

2) 供与機材の場合

早めに通関書類をJICA事務所に送付するとともに, コンサイニーを明確に表示する必要がある。

- ・コンサイニー:

Universidad Nacional de La Plata,

Facultad de Ciencias Veterinarias

- ・陸揚げ港: Buenos Aires 港

(5) 要請書手続き

要請書(A1, A2-3, A4フォーム)の手続きは, ラ・プラタ大学獣医学部で作成され, 同大学本部を經由し, 外務省国際協力課にて決裁が完了する。所要日数は, 各担当者が持ち回れば約1週間, 概ね2~3週間は必要である。なお, 休日・ストライキ等が入れば1ヶ月以上かかることもある。

(6) 一般事情

1) 治安

一般に良好で, 例えば東京に生活する程度の心構えで十分と思われた。但し, 一般社会ではスペイン語しか通用しないことが多いので, 万一の場合は明らかなハンディキャップがあろう。最小限度のスペイン語の修得が望ましい。

2) 医療

ラ・プラタの市内には, 日本の中小都市に匹敵する程度の医療機関が存在しており, 医療の水準も決して劣っていない。なお, 派遣専門家には, ラ・プラタ大学付属の医療機関利用の便宜が図られる。

3) 住宅事情

月額賃借料100米ドル相当のアパート, 同じく700米ドル相当の1戸建物件を訪れ調査した。前者の2DK相当, 後者はガレージ, 庭(100m²), 地下室付き2階建(150m²), 家具付きの家であった。概して, 東京近郊の賃借料の約10分の1程度と考えられ, 常に大学近辺で適当物件が探し出せるようであった。なお, 電話の新たな設置は困難であるので, 予め電話が設置されていることを確認する必要がある。

現地の様々な状況から長期専門家にとっては自家用車を所有することが望ましい。日

本車の持込みは、現地のサービス機関が不十分なことから現地で合併会社を作り販売しているメーカー（ルノー、ブジョー、フォード、フィアット、フォルクスワーゲン等）のものを選んだほうが良い。

4) 子女教育事情

日本語教育を希望するものは

- ① ブエノス・アイレスのスクールバス巡回圏に居住し、日本人学校に通学させる。
- ② 現地学校に通学し、ラ・プラタ大学留学中の適当な日本人、日系人に家庭教師を依頼することなどが考えられる。

現地学校としては、ラ・プラタ大学付属小学校（7年制）または、中・高校（5年制）があり随時入学が可能である。これらは周辺で教育程度の最も高い学校と言われている。

5) 周辺研究事情

獣医学部に隣接するラ・プラタ大学医学部を、生化学学科、生理学科を中心に調査した。研究レベルは高く、前者では細胞膜フォスホリビットの研究、後者はすい臓の内分泌研究などが行なわれていた。また、研究機器等も豊富で日本の獣医学研究室の何れにも劣らないとの印象を受けた。SPFを含む実験動物が適切な施設で飼育されていた。

要するに、将来、獣医学部に各種の施設、設備、備品が備わるとしてもこれらが同国にとって全く新規の物であるという可能性はほとんど考えられず試薬、消耗品の入手も多少の時間を見込めばほとんど問題なく現地で入手できるとの心証を得た。

8. その他

(1) 実施協議調査団の派遣について

今後、本長期調査員の結果を踏まえ、実施協議調査団を派遣するものであるが、以下の事項について、事前にアルゼンティン関係者と協議した。

1) 派遣時期

アルゼンティン側では、12月20日から2月末まで長期(クリスマス、ニューイヤ、夏季)休日に入るため、12月上旬までに派遣する必要がある。

2) R/D, TSIの言語

アルゼンティン側から、特に西語にしてほしい旨の強い要望はなく、英語にて正文を作成することで了解された。

なお、アルゼンティン側で西語文の必要が生じれば仮訳として、英語の正文を基にア側で作成するとの事である。

3) R/D, TSIの署名者

日本側はJICAが派遣する実施協議調査団の団長とし、アルゼンティン側は本プロジェクトの最高責任者であるラ・プラタ大学学長とすることで了解された。

(2) 第三国研修

JICAにおける第3国研修の制度の概要を説明するとともに、将来、本プロジェクトの協力成果としてアルゼンティン側で開催できるようになることが望ましい旨、伝えた。

なお、長期調査員の見解として、本プロジェクトの研究成果が、第3国研修という形で達成できることが望ましいと思われる。また、その開催時期は、研究者の技術レベル、研究設備等を考慮すると、プロジェクト終了後あるいは可能であれば早くとも5年目に実施すべきであると判断される。

< 付 属 資 料 >

1. アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部技術協力計画（仮称）長期調査調査方針及び対処方針

No.	調査項目等	調査・対処方針	備考	調査結果
1	<p>(プロジェクトの基本計画) 正式名称</p>	<p>(和) アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画 (英) The Veterinary Research Project at University of La Plata (西)</p>		
2	協力期間	1989年4月1日から5年間とする。		
3	プロジェクトの位置付け (上位計画との関連, 背景)	関連する国家開発計画等あれば調査する。	『アルゼンティン経済発展研究報告書』 等参照	
4	プロジェクトの目的 Objective of the Project:	アルゼンティン國の基幹産業である牧畜業の発展に資する ためラ・プラタ大学獣医学部において家畜衛生分野の研究 活動の強化を行なう。 for the purpose of strengthening research activities in the field of animal health in order to contribute to the livestock industry development in the Republic of Argentina		
5	日本側研究協力の目的	ラ・プラタ大学獣医学部畜伝染病・公衆衛生学科におけ る研究協力を行ない、これらを通じた研究者の養成を行な う。		
6	プロジェクト活動内容 (協力課題)	ア側研究課題プログラムの不明点等につき追加調査 の上、ア側と協議を行なう。	5年間の綱引きの案を作成する。 T S I (暫定実施計画) に取纏める。	
7	研究成果の発表	研究成果の発表の場となる学会、学術誌等につき調査する。		
8	研究成果のフィールドへの 波及	同大学における成果の具体的なフィールドへの波及の方法 につき調査する。 (我が方としてはア側が関係機関と連繫をとるよう提案する)	普及部門については本件の協力の対象と していないが本プロジェクトの成果をア 側として具体的にどのよう に活用するか 調査する。	
9	プロジェクトの評価	プロジェクトの目的に対する到達度を把握するため評価法 について協議する。 1) 課題選定の適切性 2) 双方の投入状況 3) C/Pの研究状況 4) 各研究課題毎の論文の発表状況 5) 成果の波及効果		

No.	調査項目等	調査・対処方針	備考	調査結果
10	マスタープラン(M/P)	現地調査を踏まえ、協力目的、協力目的、協力課題等を盛り込んだM/Pについて協議する。	R/D, ANNEX I 1) Objective of the Project 上記4.及び5を参照 2) Activities of the Project 上記6を参照	
11	プロジェクト・サイト	獣医学部以外の活動拠点として必要な場所があれば調査する。	基本的に機材供与する場所、基盤整備事業が予想される場所は当初よりサイトとして含める。 R/D, ANNEX I	
12 (日本側投入計画) 専門家派遣		* チームリーダー * 業務調整 * 長期専門家 2～3名 * 短期専門家 必要に応じて派遣する。(年間最大5名程度) 注: チームリーダーは、兼任とすることがある。	各派遣専門家の業務内容につきア側に説明 説明する。 R/D, ANNEX II	
13	研修員受入れ	獣医学部のスタッフのうちC/Pとなる者のリスト(経歴実績を含む)を作成し、受け入れ計画について協議する。(研修期間は1年以内とし、年間2～3名程度受入れる。)	視察の研修員の人数も2～3名の中に含む。 学位を希望するC/Pには、国費留学生の制度を利用するより指導する。	
14	機材供与	必要な機材をリスト・アップするし、5か年間の機材供与計画の概要につき調査を行なう。 機材の更新・保守はア側が行なうことを説明する。	R/D, ANNEX III 時間があれば現地で機材の現地調達の可能性について調査する。	
15	ローカルコスト負担事業	プロジェクトの実施に不可欠な事業のうちア側が負担困難なものがあれば調査を行なう。		
16 (アールゼンティン側投入計画) 建物・施設等		プロジェクトの活動に必要な建物・施設が確保されているか調査する。 1) 専門家、調整員の執務室 2) 機材の設置場所等 3) 実験動物舎(チャココムス診断研究調査所)	R/D, ANNEX V	
17	人員配置	各研究室ごとに必要な研究スタッフ(C/P)が確保されているか、各C/Pの勤務体制、研究状況につき調査する。その他、下記人員を確保するよう要求する。 1) 事務補佐員 2) 運転手	R/D, ANNEX IV	

No	調査項目等	調査・対処方針	備考	調査結果
18	予算措置	<p>本計画の円滑な実施のための予算措置が講じられているか。下記の経費は原則的にア側負担であることを確認する。</p> <p>1) 機材引き取り経費(通関・倉庫料等)及び据付工事費</p> <p>2) 供与した機材の維持管理費</p> <p>3) 人件費</p> <p>過去の予算執行実績等を調査する。</p>	機材の維持管理経費の概算額を算出する。	
19	(プロジェクト運営)	<p><日本側対応案></p> <p>(最高責任者) 学 長</p> <p>(プロジェクトマネージャー) 獣医学部長</p> <p>(チームリーダーのC/P) 獣医学部長</p> <p>(業務調整のC/P) 獣医学部長</p> <p>(専門家のC/P) 各研究課題従事者</p>	プロジェクトの主体は、主たる被益者であるラ・ブラタ大学、アルセンティン国政府である。我が方はア側が行なう研究強化事業に我が国が協力をできる一部分について協力するという立場を明確にする。	
20	研究課題の決定・変更	<p>1) 研究課題の代表者及び派遣専門家は、ラ・ブラタ大学獣医部及びJICAに対し1年毎の研究の進捗状況を文書にて報告する。</p> <p>2) ア側より研究計画の変更案(プロポーザル)が提出された場合、JICAは国内委員会の検討結果を踏まえ、その協力を得つつ、研究計画の変更案(カウンスンタープロポーザル)を作成する。合同委員会の承認を経て、最終的に研究計画の変更を決定する。</p> <p>また、研究の進捗状況等により研究計画の変更が必要な場合についても合同委員会で承認する。</p>	開始後の研究課題の決定・変更等の方法については日・アの考え方に隔たりがあると判断される場合、R/D締結後別の覚書を結ぶことを検討する。	
21	国内委員会	<p>本プロジェクトの技術的支援のため国内委員会を設置する。同委員会の検討事項は以下のとおり。</p> <p>1) 実行計画の策定に関する事項。</p> <p>2) プロジェクトに係る専門家派遣、研修員受入れ、機材供与計画に関すること。</p> <p>3) 研究課題に関すること。</p> <p>4) その他プロジェクトの実施に必要な事項。</p>	ア側に対し国内委員会の機能等を説明する。	

No.	調査項目等	調査・対処方針	備考	調査結果
22	合同委員会	<p>〈日本側対応案〉 少なくとも年1回開催する。 (機能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施計画の進捗状況を確認する。 2) 年次計画を承認する。 3) 研究課題の採択・変更を承認する。 4) 両国政府の取るべき措置につき勧告する。 (メンバー) <p>1) 議長 : 学 長 2) アルゼンティン側 : 学部長 各研究課題代表者 チャームス診断研究調査所長 3) 日 本 : チャームリーダー 業務調整 派遣専門家 JICA事務所所長 その他JICAが派遣した者 (注: 大使館員はオブザーバー参加)</p>	R/D, ANNEX VI 合同委員会開催の際は、日本側より調査団等を派遣して協議に加わることをする。	
22	〈実施上の問題点〉 22 専門家の身分・処遇	技術協力協定に記載されている内容につき再確認するとともに手続き等についても遅延なく行なわれるよう確認する。	漁業学校、国鉄のプロジェクトの問題点等あれば調査する。 上記2つのプロジェクトでは特に問題なく履行されているが、ラ・プラタ大学においても速やかに行なわれるよう手続きを確認させる。	
23	専門家の地位	長期専門家に対しラ・プラタ大学における正式な肩書きを付するよう要請する。	ラ・プラタ大学の規則・学内の手続きの概略についても確認する。	
24	知的所有権について	日本との協力で得た成果については日・ア合意のもと、論文の発表を行なうこととする。	将来、本問題が生じない様、論文発表の方法等につき合意を得る必要あり。	
25	機材の引き取り	引き取りの手続き及び経費はア側が責任をもって行なうことを確認する。 機材のコンプライー及び携行機材の引き取り等についても確認する。		
26	要請書手続き	プロジェクトの円滑な実施に必要な要請書の手続きを確認する。	できるだけA1, A4 formの5年間一括取り付けを行なう。	

No.	調査項目等	調査・対処方針	備考	調査結果
<その他> 27	一般事情	専門家の治安・医療・住宅事情、子女教育事情等を調査する。		
<実施協議(R/D)> 28	派遣時期	1988年12月を目途とする。		
29	R/D言語	英語	西語を作成する場合は、英語を正文とする。 西文の作成は、当方にて説明した英文および西文の難形をもとにア側にて西文を作成し、前広に日本側に送付するよう依頼する。	
30	R/D署名者	(日本側) 実施協議調査団長 (アルゼンティン側) 学 長	調査団派遣が不可能な時はJICA事務所長が署名を行なりともあり得る。	
<第3国研修> 31	概要説明	本件は我が国の中南米諸国に対する獣医学研究分野の協力の核となる可能性を有することから、当初よりア側に対し第3国研修のプログラムを説明し理解を求めぬ。	開始の時期→3～5年後? コース内容→周辺国のニーズを調査する必要あり	

2. メモランダム (西語)

MEMORANDUM DE LAS REUNIONES REFERIDAS AL PROYECTO
DE INVESTIGACIONES DE LA FACULTAD DE CIENCIAS VETERINARIAS
DE LA UNIVERSIDAD NACIONAL DE LA PLATA

La Agencia de Cooperación Internacional del Japon (JICA) ha enviado a la República Argentina una Misión de Estudio de Larga Duración encabezada por el Profesor Tomotari Mitsuoka de la Facultad de Agronomía de la Universidad de Tokyo entre los días 8 y 19 de agosto de 1988.

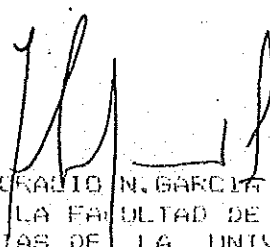
Durante su estadia, los miembros de la Misión mantuvieron conversaciones con los organismos relacionados de la parte Argentina, acerca del Proyecto de Cooperación Técnica del Japon hacia la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad de la Plata.

Ambas partes ratifican que los puntos acordados como resultado de las mismas son las expresadas en el documento anexo a la presente.

LA PLATA, 16 de agosto de 1988

老岡知足

Dr. TOMOTARI MITSUOKA
LIDER
MISION DE ESTUDIOS DE
LARGA DURACION AGENCIA
DE COOPERACION INTERNACIONAL
DEL JAPON


Med. Vet. HORACIO N. GARCIA VALENTI
DECANO DE LA FACULTAD DE CIENCIAS
VETERINARIAS DE LA UNIVERSIDAD
NACIONAL DE LA PLATA

CC. Embajada del Japon.

JICA Central y Oficina en Buenos Aires.

Presidencia de la Universidad Nacional de La Plata.

Secretaria de Agricultura y Ganaderia de la Nacion.

DOCUMENTO ANEXO

1) DENOMINACION DEL PROYECTO

Proyecto de Investigaciones en la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata de República Argentina.

2) DURACION DE LA COOPERACION

La duración de la cooperación en el proyecto será de 5 años a partir del 1 de abril de 1989.

3) OBJETIVO DEL PROYECTO

Consolidar las actividades en investigaciones de la Facultad de Ciencias Veterinarias de La Plata para asistir al desarrollo de una de las principales actividades de la República Argentina, como es la ganadería.

4) OBJETIVO DE LAS ACTIVIDADES DE INVESTIGACIONES DE LA PARTE JAPONESA.

Efectuar la formación de investigadores por intermedio de la cooperación en investigaciones veterinarias dentro del área de la Epizootiología y Salud Pública en la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata.

5) MATERIAS DE LAS ACTIVIDADES DEL PROYECTO

A los efectos de dar cumplimiento al objetivo del punto anterior (4), se efectuarán actividades de

investigaciones patológicas e inmunológicas, para el diagnóstico de enfermedades infecciosas producidas por microorganismos (bacterias, virus, hongos, protozoos) en el ganado.

a) Investigaciones básicas en Morfología.

b) Investigaciones básicas referidas a la morfología y funciones, utilizando animales de laboratorio.

c) Investigaciones fisiológicas y bioquímica de condiciones patológicas de portadores de enfermedades infecciosas.

d) Investigaciones generales orientadas a la aproximación hacia las áreas de aplicación.

5) SITIOS DEL PROYECTO

Organismo receptor: Universidad Nacional de La Plata

Sitio del proyecto: Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata.
(Sede Central, CEDIVE, Establecimiento de Santa Catalina.)

7) LAS MEDIDAS A TOMAR POR LA PARTE JAPONESA

1) Envío de expertos.

a) Líder del Grupo

b) Coordinador

c) Expertos de larga duración

* Campo de la Morfología Patológica.

* Campo de la Cal. de Animales de Laboratorio.

* Campo de la Fisiología, Farmacología y Bioquímica.

2) Suministro de personal

Se dispondra el siguiente personal ademas de proveer. Por cada tema de investigacion, los equipos de investigadores necesarios para la ejecucion del proyecto.

- a) Auxiliar administrativo.
- b) Chofer.
- c) Encargado del control y mantenimiento de los equipos.

3) Previsiones presupuestarias

Se efectuaran las siguientes provisiones presupuestarias ademas de la prevision de la totalidad de los gastos operativos necesarios para el desenvolvimiento armonico del Proyecto:

- a) Los gastos de despacho aduanero de los equipos suministrados desde Japon y los gastos de montaje de los mismos.
- b) Los costos de conservacion y mantenimiento del equipamiento suministrado por Japon.
- c) Los gastos de personal del punto anterior.

9) DIRECCION DEL PROYECTO

A) El maximo responsable del proyecto sera el Presidente de la Universidad Nacional de La Plata.

B) El Director del proyecto sera el Decano de la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata.

* Campo de la Microbiología.

Dentro de las áreas mencionadas se enviarán de 2 a 3 expertos.

Nota 1) El Líder del grupo podrá cumplir simultáneamente la función c).

Nota 2) Los expertos de corta duración serán enviados según las necesidades.

2) Recepción de becarios

Las becas en Japón tendrán una duración no mayor a un año y la cantidad será de 2 o 3 becarios por año.

3) Suministro de equipos.

Se suministrarán equipos, maquinarias y demás materiales necesarios para la ejecución del proyecto.

B) LAS MEDIDAS A TOMAR POR LA PARTE ARGENTINA

1) Terrenos, edificios e instalaciones.

Se prepararán los siguientes edificios e instalaciones, además de proveer los terrenos, edificios e instalaciones necesarios para las actividades del proyecto.

a) Oficina para el líder, los expertos y el coordinador.

b) Edificio necesario para instalar el equipamiento principal.

c) Bacterio

d) Línea telefónica para el equipo de facsimilado.

C) La contraparte del Líder del grupo de expertos japoneses, será el Decano de la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata.

D) La contraparte del coordinador japonés será un coordinador de la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata.

E) Las contrapartes de los expertos japoneses serán los representantes de los respectivos temas de investigación y los respectivos investigadores.

10) COMITE MIXTO

A fin de llevar a cabo el presente proyecto en forma eficaz y continua se establecerá un Comité Mixto, que tendrá las siguientes composición y funciones.

Composición

Presidente: Presidente de la Universidad Nacional de La Plata.

Parte Argentina: Decano de la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de La Plata.

Coordinador

Representantes de los respectivos temas de investigación.

Director del CEDIVE.

Parte Japonesa: Líder del grupo de expertos.

Coordinador

Expertos

Director de la Oficina de JICA en la Argentina.

Demás personas enviadas por JICA.

Funciones

- a) Reunirse de acuerdo a las necesidades del proyecto, como mínimo una vez por año.
- b) Revisar el estado de avance de los planes en ejecución.
- c) Aprobar los planes de ejecución para el año siguiente.
- d) Aprobar la adopción o modificación de los temas de investigación.
- e) Revisar las medidas a ser tomadas por parte de ambos países.

Nota: 1) Podrán participar como observadores, la Embajada del Japon en la Argentina y la Secretaria de Estado de Agricultura, Ganadería y Pesca del Ministerio de Economía de la Nación.

11) EVALUACION DEL PROYECTO

Se efectuará la evaluación del grado de cumplimiento de los objetivos del proyecto, mediante el siguiente método:

- a) Grado de acierto en la elección de los temas de investigación.
- b) Estado de cumplimiento de las disposiciones por ambas partes.
- c) Estado de las investigaciones de la contraparte.
- d) Estado de publicación de los trabajos de las investigaciones.
- e) Efecto expansivo de los resultados de las investigaciones.

3. メモランダム (仮訳)

ラ・プラタ大学獣医学部研究計画に関する会議事録

国際協力事業団は、1988年8月8日から8月19日まで、東京大学農学部教授
光岡知足博士を団長とする長期調査員をアルゼンティン共和国に派遣した。

その滞在中、調査員はラ・プラタ大学獣医学部に対する日本の技術協力計画につい
てアルゼンティン側の関係当局と協議を行った。

その結果、合意事項については、付属文書の通りであることを双方確認した。

ラ・プラタ市

1988年8月16日

光岡知足 博士

リーダー

長期調査員

国際協力事業団

GARCIA VALENITI

ラ・プラタ大学獣医学部長

(写) 配布先 ・ 在亜日本大使館

・ J I C A 本部

・ J I C A アルゼンティン事務所

・ ラ・プラタ大学学長

・ 経済省農牧水産庁

・ 教育省教育庁大学局

付属文書

1. プロジェクト名称

アルゼンティン ラ・プラタ大学獣医学部研究計画

2. 協力期間

プロジェクトの協力期間は、1989年4月1日から5年間とする。

3. プロジェクトの目的

アルゼンティン共和国の基幹産業の1つである牧畜業の発展に資するため、ラ・プラタ大学獣医学部における研究活動の強化を行う。

4. 日本側研究活動の目的

ラ・プラタ大学獣医学部家畜伝染病・公衆衛生分野における獣医学の研究協力をを行い、これらを通じた研究者の養成を行う。

5. プロジェクト活動内容

上記4の目的を達成するため、家畜における微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）感染症の診断のための病理学的・免疫学的研究活動を行う。

- (1) 形態学的基礎研究活動
- (2) 実験動物を活用した形態と機能に関する基礎研究活動
- (3) 感染症の宿主病態の生理・生化学的研究活動
- (4) 応用領域へのアプローチを目指した総合的研究活動

6. プロジェクトサイト

- (1) 受入機関 : ラ・プラタ大学
- (2) プロジェクトサイト : ラ・プラタ大学獣医学部
(本部、チャスコムス診断研究調査所、

7. 日本側の取るべき措置

(1) 専門家派遣

- ① チームリーダー
- ② 業務調整員
- ③ 長期専門家の分野
 - ・病理形態学領域
 - ・実験動物学領域
 - ・生理・薬理・生化学領域
 - ・微生物学領域

但し、上記分野のうち、2～3名を派遣する。

注1) チームリーダーは、上記③の分野を兼務することがある。

注2) 短期専門家は必要に応じて派遣する。

(2) 研修員受入れ

日本に受入れる研修期間は1年以内とし、その人数は年間2～3名とする。

(3) 機材供与

プロジェクトの実施に必要な器具、機材及びその他の資機材を供与する。

8. アルゼンティン側の取るべき措置

(1) 土地、建物及び施設

・プロジェクトの活動に必要な土地、建物及び施設を提供するとともに、その他、以下の建物、施設を準備する。

- ① チームリーダー、専門家及び業務調整員の執務室
- ② 主要機材の設置に要する建物
- ③ 実験動物飼育施設

④テレファックス用の電話回線

(2) 人員配置

・プロジェクトの実施に必要な研究スタッフを各研究課題ごとに確保するとともに、その他以下の要員を準備する。

①事務補佐員

②運転手

③機材の保守・管理者

(3) 予算措置

・プロジェクトの円滑な実施のために必要なすべての運営経費を確保するとともに、その他以下の予算措置を講ずる。

①日本から供与する機材の引取り経費及び据付工事費

②日本から供与する機材の維持管理費

③上記(2)の人員費

9. プロジェクトの管理

(1) プロジェクトの最高責任者は、ラ・プラタ大学の学長とする。

(2) プロジェクトの管理者は、ラ・プラタ大学獣医学部の学部長とする。

(3) チームリーダーのカウンターパートは、ラ・プラタ大学獣医学部の学部長とする。

(4) 業務調整員のカウンターパートは、ラ・プラタ大学獣医学部のコーディネーターとする。

(5) 日本人専門家のカウンターパートは、各研究課題の代表者及び研究従事者とする。

10. 合同委員会

このプロジェクトを効果的、継続的に実施するため、以下の機能、構成による合同委員会を設立する。

(1) 構成

- ①議長 : ラ・プラタ大学学長
- ②アルゼンティン側: ラ・プラタ大学獣医学部
業務調整員
各研究課題別代表者
チャスコムス診断研究調査所長
- ③日本側 : チームリーダー
業務調整員
専門家
JICAアルゼンティン事務所長
その他JICAが派遣した者

注) 在亜日本大使館及び経済省農牧水産庁の代表者は、オブザーバーとして参加できる。

(2) 機能

- ①少なくとも年1回開催する。
- ②実施計画の進捗状況をレビューする。
- ③年次別実行計画を承認する。
- ④研究課題の採択・変更を承認する。
- ⑤両国の取るべき措置についてレビューする。

1.1. プロジェクトの評価

・プロジェクトの目的に対する目標達成度の評価は、以下の事項について行う。

- (1) 研究課題選定の適切性
- (2) 双方の取るべき措置の実施状況
- (3) カウンターパートの研究状況
- (4) 研究論文の発表状況
- (5) 研究成果の波及効果

4. カウンターパート一覧表

1989年度に発足する課題のカウンターパート

A. 嫌気性細菌症に関する研究活動

Martino, Juan J.	Associate professor
Linzitto, Oscar R.	Assistant professor
Tunes, M. del L.	Assistant professor
Fernandez, E. J.	Associate professor
Stanchi, N. O.	Assistant professor
Tobia, M.	Associate professor
Abeiro, H. D.	Assistant professor
Agostini, M. A.	Assistant professor
Ferreiro, E.	Assistant professor
Cerda, R. O.	Assistant

B. トキソプラズマ症に関する研究活動

Venturini Lucia M.	Professor
Perfumo Carlos J.	Associate professor
Idiart Jurio	Associate professor
Petrucelli Miguel A.	Assistant professor
Venturini M. Cecillia	Assistant professor
Vignau M. Laura	Assistant
Castellanos Cecillia	Assistant professor
Di Lorenzo Cecillia	Assistant professor
Guardis Monica	Assistant professor
Risso Miguel A.	Assistant professor

C. ウイルス感染症に関する研究活動

Etcheverrigaray, Maria M.	Professor
Oriva, Garciela A.	Associate professor
Gonzalez, Ester T.	Assistant professor
Nosseto, Edgardo O.	Assistant professor
Gimeno, Eduardo J.	Associate professor
Galosi, Cecilia M.	Assistant
Pocoraro, Marcelo	Assistant
Cid de la Paz, Viviana	Assistant
Echeverria Maria G.	Assistant
Arias, Daniel	Assistant
Collussi, Andrea	Assistant
Rossi, Sergio	Assistant
Copes, Jurio	Assistant
Renner, Juan E.	Associate professor
Baschar, Hector	Associate professor
Massone, Raul	Associate professor
Arcemi, cesar	Assistant professor
Arauz, sandra	Assistant professor
※ Castellanos, cecilia	Assistant professor

D. 感染症の病理・病理組織学的研究活動

Martin, A.A.	Professor
※ Perfumo, C.J.	Associate professor
※ Petruccelli, M.A.	Assistant professor
※ Venturini, M.A.	Assistant professor
Gomez, C.	Associate professor
※ Idiart, J.R.	Associate professor
Quiroga, A.	Assistant
Herrero, M.A.	Assistant
※ Risso, M.A.	Assistant
※ Linzitto, O.	Assistant
※ Gimeno, E.J.	Associate professor
Ibargoyen, G.S.	Assistant professor
※ Massone, A.R.	Assistant
costa, E.F.	Assistant professor
※ Renner, J.E.	Assistant
※ Baschar, H.	Assistant
Larreche, J.	

※印は他の課題にも参加

1989年度以降に発足と思われる課題のカウンターパート

Pomero, J.R.	Associate professor
Valera, A.R.	Assistant professor
Espinosa, G.A.	Assistant professor
Ciacobononi, G	Assistant
Argenio, L.	Assistant
Fonrouge, R.	Assistant professor
Gonzales, O.	Assistant professor
Liliana, F.	Assistant
Piazza, D.	Assistant professor
Farjat, H.M.	Assistant professor
Pennipede, E.E.F.	Professor
Bernagozzi, J.A.	Associate professor
Trebucq, R.A.	Assistant professor
Meñendez, N.A.	Professor
Brandetti, E.	Associate professor
Piscopo, M.V.	Assistant

5. 供与機材予定リスト(消耗品, 小型備品は除く)

品名	員数	単価(千円)	金額(千円)	備考
*透過型電子顕微鏡	1		30,000	日本電子
*走査型電子顕微鏡	1		10,000	日本電子
同試料作成装置				
*ウルトラミクロトーム	1		7,000	LKB
*ガラスナイフメーカー	1		1,100	LKB
*イオンスプッター	1		1,000	日立
*臨界点乾燥器	1		920	日立
*フリーズエッチング装置	1		20,000	日本電子
*マイクロスライサー	1		700	
同小型備品				
*樹脂重合・電顕用恒温器	1		400	
*EM-インフィルトレーター	1		100	
*紫外線重合装置	1		150	
*超音波洗浄装置	1		300	
*樹脂脱気用真空装置	1		200	
*写真引伸し機	1		300	
システム顕微鏡	1		4,000	
*落射型蛍光顕微鏡	2	2,000	4,000	
組織標本作成装置	1		2,000	
グリオスタット	1		2,000	
大容量冷却遠心機	1		4,000	
高速冷却遠心機	1		4,000	
超高速遠心分離機	1		10,000	
微量超高速遠心分離機	1		8,000	
ブレハブ恒温室				
37℃	1		2,000	
4℃	1		2,000	
CO ₂ 培養装置	4	1,500	6,000	
*嫌気培養装置	3	2,000	6,000	
細菌培養器	3	1,500	4,500	
超低温庫	4	1,500	6,000	
フリーザー	5	400	2,000	
高圧滅菌器	5	600	3,000	
乾熱滅菌器	5	800	4,000	
クリーンベンチ	4	2,000	8,000	
*ドラフトチャンバー	1		1,000	
*超音波破碎機	1		1,000	
純水装置	2	1,500	3,000	
動物用ラミナフローラック	3	2,000	6,000	
空調機器類	1		5,000	
大型オートクレーブ	1		2,000	
真空凍結乾燥機	1		2,000	
高速液体クロマトグラフ	2	5,000	10,000	
2波長分光光度計	1		8,000	
ELISAリーダー	1		4,000	
遺伝子解析装置	1		10,000	
DNAシーケンサー	1		20,000	
液体シンチレーションカウンター	1		15,000	
γカウンター	1		10,000	
計			250,670	

* : 1989年度に供与が望ましいもの

6. 団長あいさつ

ラ・プラタ大学獣医学部研究プロジェクト関係教官
第一回全体会議において調査団長としての所信表明

1988年8月11日(木)

10:00~12:00

調査団長 光岡 知足

< 挨拶 >

アルゼンティン国には僅かな滞在ですが、この国が極めて重厚な西欧の伝統を持った世界に誇る文化国家であることをあらためて印象付けられました。また、何回かいただいた食事の値段を日本のそれと比較することによって、この国が極めて高い畜産業の生産性を持たれていることを実感として認識することができました。西洋文化を持ち、かつ低い生産性の畜産業を保護政策で維持している日本とはまことに対照的な国であると思います。このような国の獣医学研究計画に、日本が協力できることはまことに光栄でありますし、我が国の獣医学研究に対しても極めて有益な影響がもたらされるものと確信しております。

さて、今回の我々の役割は、――本年4月ここにおられます鈴木教授を団長とする事前調査を踏まえ、研究計画の詳細について一層検討を加え、本年12月に予定されている最終的契約書、すなわちR/Dの調印に必要な情報を集めることとあります。公表された鈴木ミッションの調査報告にもとづき、アルゼンティン側からは既に1989年度にかかわる研究課題を提出していただきましたし、さらにGarcia Valenti学部長には、日本側の主な協力機関になることが予想される場所を東京大学を含めて実際に見ていただいております。一方、日本側では提出していただいた研究課題の検討、関係が予想される省庁間の話し合いなどが極めて精力的に行なわれました。

これらの経緯を踏まえて、我々はこの研究計画の協力方法について一つはかなり具体的なイメージを作り上げることができたと思います。本日の午前中は、そのことを皆様に説明し、それについて双方が将来に向けての実りある協議を行なうことができれば大変よろしいのではないかと考えています。

その前に一つ申し上げておきたい事があります。以下に申し上げることは、言葉が不十分で誤解を生むかも知れませんが、是非我々の真意を理解していただき、お許し願えれば幸いです。今回の現場訪問（site visit）は未だ途中であります。昨日の限られたsite visitによっても、事前調査で指摘されていた学科間あるいは研究室間の研究に必要な備品の整備状況には想像以上の格差があるとの印象を持ちました。さらに極端に申し上げれば、ある一部のunitsを除いて、国際的レベルの獣医学研究を維持するには設備の面から多大の困難があるのではないかとこの恐れを持ちました。社会的に必要な分野が発展することは当然のことではあります。しかし、教育は10年、20年、30年後の教官を作り出すという使命もある訳ですから、この面から考えれば、獣医学としてカバーする分野は、できればなるべく均衡を持って発展させていく努力も必要かと思えます。まことに越とは思いますが、私がこのような感想を持ったことを率直に述べさせて頂きました。このような観点から我々は基本的に、学科別、研究室別に研究協力するより、むしろ研究の方法、アプローチの違いを基礎に研究協力を

行なっていくとのポリシーをたてました。なぜなら、学科、研究室はむしろ教育のカリキュラムが基本となって作られている単位であり、研究の遂行にあたっては、必ずしもこのような枠にとらわれる必要がないと考えるからです。

獣医学科の研究方法を、私は、①形態学 (morphology)、②生理・生化学 (physiology and biochemistry)、③微生物学 (biology of microorganism) の3つに大別することができます。随分乱暴な分け方ですが、皆様専門家ですから、ある種のイメージは私と共有していただければと思います。さて、この3つの分類を認めていただければ、私としては、この研究計画においては、まず、形態学に関して協力を始めるのが良いのではないかと思います。形態学は今もって、生物学の方法論 (methodology) の基礎の地位は揺るがないものと考えますし、上に述べた3つの分野のうち、1分野を選択した場合、残った2分野に対する波及効果は最も大きいと考えます。

③の biology of microorganism については、既に virology を中心に素晴らしい設備が整備されており、この分野に対してはこれらの設備を十分活用した、様々な研究が出発し得るような政策が取られるべきかと思います。biology of microorganism の中に含まれる寄生虫学、細菌学などについては、現有の設備に若干の固有の設備が加われれば、大いに研究が進展することが期待できるでしょう。

さて、残った生理・生化学については、この分野は biotechnology, gene technology などに代表されるように、国際的にも、学際的にも最も研究競争の激しいところだと思います。そしてこの分野の発展なくしては、21世紀の獣医学は、次第に成り立たなくなる可能性があります。しかし、この分野の研究対象は極めて広く多彩でありますから、研究対象を念頭に置かない設備の整備は全く意味がありません。我々としては、形態学あるいは微生物学分野の研究の展開に応じて発生してきた研究テーマのうち、生理・生化学的方法論の適用が研究成果の向上に役立つような研究対象を発掘していくことが先決かと思います。そのような研究対象に関して、この研究計画の後半、設備の整備を始めとして、大いに協力していくという考えをとりたいと思います。

以上のことを基本方針として、以下高橋教授から実際面にわたるような形で我々の予定をさらに説明していただこうと思います。この時点で、御意見、御質問があれば喜んでお受けします。

7. 関係機関連絡先

* J I C A 事務所 Agencia de Cooperacion Internacional de Japon

Dr. Ricardo Rojas 401 8-Piso

Tel. 311-0514, 312-8926

* 日本大使館 Embajada del Japon

Av. Paseo Colon 275 9-Piso

* 外務省・国際協力局 Ministerio de Relaciones Exteriores y Culto-Subsecretaria
de Cooperación Internacional

Reconquista 1088, 10階

Tel. 311-0070

* 経済省・農牧水産庁 Ministerio de Economia-Secretaria de Agricultura,

Ganaderia y Pesca

Av. Paseo Colon 982, 1階

Tel. 362-8944/5091 int. 202

* 教育省・教育庁・大学局 Ministerio de Educacion y justicia-Secretaria de

Educacion-Direccion Nacional de Asuntos Universita-

rios

Pizzurno 935, PB

Tel. 42-5862/1022

* ラ・プラタ大学 Universidad Nacional de La Plata

Av. 7 No. 776 La Plata

Tel. 021-21-5501/3114/4389

* HOTEL CRILLON

Av. Santa Fe 796

Tel. 312-8181/91

* HOTEL ASTOR

ENTRE RIOS 1649/7600 MAR DEL PLATA

Tel. (023)2351

* CORREGIDOR HOTEL

Calle 6 No. 1026 La Plata

Tel. 021-24-7103/04/05/06

JICA